

Uenomura+Life

ウエノムライフ

I・Uターナーのための【上野村読本】



上野村の行事・イベント・サークル情報

仕事だけの人生は、寂しくありませんか。豊かな人生は、『仕事+趣味+家族+近所づきあい…』といったように、様々な“大切な時間”の積み重ねでできているはず。私たちはそんな考えのもと、仕事以外の時間も大切に生きています。

● 村民体育祭

秋の澄みきった空の下、年に1度村をあげて行われる『村民体育祭』。12の行政区がそれぞれのチームに分かれ、子どもからお年寄りまで、優勝を目指して一致団結。綱引きやリレー、グラウンドゴルフ、玉入れなど、みんな一生懸命頑張っています。



● サークル活動

ソフトボールや野球、バレーボール、グラウンドゴルフなど、多彩なサークル活動が行われています。幅広い年代が楽しめ、地域や職域を越えて交流が深まります。中には、大きな大会に出場した本格的な団体もあります。興味のある方はぜひご参加を。



● 祭り・伝統芸能

上野村では、祭りや伝統芸能をとっても大切にしています。『十石市』や『ふるさと祭り』など村をあげて行うものだけでなく、各地区ごとの独自の祭りも沢山あり、“地芝居”や“舞踊”など、毎年趣向を凝らした出し物が催されています。



● 育児サークル『ミッキーズ』

毎週月・水・木の午前中、すこやかセンターと図書館を中心に活動しています。子どもだけでなく親同士の交流の場にもなっていて入園前の情報交換もできます。クッキングや遠足、季節のイベントなど年間を通して楽しく活動しています。



● 『おてんま』作業

『おてんま』とは、村で行う共同作業のこと。道路や河川の清掃、道路の舗装、村で行われるイベントのお手伝いなど、ボランティア活動全般を行っています。自分たちが暮らす村だからこそ、自分たちの手で大切に守り続けていきたいです。



● ノルディックウォーク

健康増進を目的としたノルディックウォークは、2本のポールを使い、普通のウォーキングよりも効率的に全身の筋肉を鍛えることができます。上野村の大自然の恵みを感じながら、新緑の中を歩き、関東一の清流神流川や村内集落などを巡り、癒し効果抜群です。



● シンポジウム

これからの上野村、ひいては地域のあり方を考える、『新たな多数派の形成をめざす上野村シンポジウム』。官公庁やNPO法人、大学教授、企業の代表を招いての講演会や、討論会を開催。地域おこしを考える各地域の自治体の参加も、年々増えています。



● サマーフェスティバル

平成の名水百選にも選ばれている神流川源流域で、川魚のつかみ取りやマス釣り大会、カヌー教室など子どもから大人まで楽しめるイベントです。毎年、村外から訪れる多くの方々は、自然いっぱいの上野村を満喫しています。



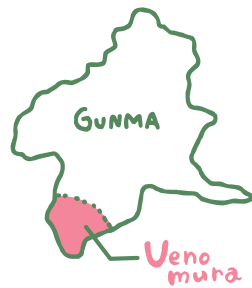
群馬県上野村役場

〒370-1614 群馬県多野郡上野村大字川和11番地 TEL 0274-59-2111 FAX 0274-59-2470

E-mail kikakuka@vill.ueno.gunma.jp URL <http://www.uenomura.jp>

2020年3月 発行

群馬県の西南端。上野村は豊かな自然に包まれた小さな山村です。総面積の95%は森林、人口はわずか1150人ほど。そんな上野村が総力をあげて取り組んできたのが「Uターン施策です。やりがいのある仕事、自分に合った暮らし方を見つけ、定住した人は230人にのぼります。移住者たちの力を借りて上野村は変わり、その歩みに大きな希望が生まれました。目指しているのは、「ここで生きてきた人」と「ここで生きることを決めた人」が共に支え合



い、明るい未来を築いていくこと。手を携え、人が人を想う上野村の暮らしを一緒に楽しみながら、次の世代へ希望をつないでいきたいと考えています。これからの人の力を活かし、新しい村のかたちを創造していきます。



住宅

Iターン者の住居として、村営住宅を整備しています。一例として、1DK(7,000円～)、2DK(11,000円～)、3DK(12,000円～)のアパートタイプの他、1戸建タイプ(12,000円～)の村営住宅があり、様々な家族形態に合わせて整備しています。中にはオール電化対応住宅やベレットストーブ付きの住宅もあります。



教育

小・中学校は各1校ずつあり、少人数ならではの行き届いた教育や様々な体験ができる環境となっています。その他、学校給食費の無料化を実施。高校は近隣市町になりますが、村営バスの運行などで自宅通学も可能です。また、山村留学「かじかの里学園」にも村外から多くの子どもたちが参加しています。



妊娠・出産・子育て

1子あたり3万円の誕生祝い、第3子以降を対象に月1万円のがんばる子育て応援手当、更に拡張した制度として、月5万円のがんばる子育て応援特別手当(支給要件あり)、小・中学校入学時には入学祝金を支給します。また、1歳半～3歳未満は月5,000円、3歳以上は無料で利用できる保育所や共働きの家庭を支援するため学童保育所も完備しています。



働く

村が主体となり、観光や農・林業、農産物加工業などの事業を立ち上げ、雇用を創出しています。また、村内各事業者(社会福祉協議会、森林組合、農協、振興公社等)と連携し雇用促進を図っており、これらの団体が地域おこしの人材の受け皿として若い働き手が活躍する場を提供しています。



生活

移住前と比べ、所得が減少する方も多く、安定した所得が得られるまでの支援として、対象者には月3～5万円の生活補給金を支給する奨励事業があります。またケーブルテレビやインターネット環境も整備し、地上デジタル放送テレビと光ファイバーのインターネットは月額各500円で、利用が可能です。



医療・福祉

18歳までの子ども医療費は無料で、特定健診、各種がん検診なども無料。健診後のフォローにも力を入れ、村民の健康状態をきめ細かに把握し、健康維持を図っています。また、診療所や介護施設など医療・福祉を受けられる施設を1カ所に集約しています。



人生丸ごと
応援します！

● 上野村定住支援制度 ●

皆さんが移住を考えていく中で、上野村のことを良く知っていただくことが大切だと思います。村では、より暮らしやすい環境を応援するため、様々な定住支援を行っています。

あふれる魅力を 伝えていく

上野村は、魅力の宝箱

石井 産業情報センターの仕事は、上野村の魅力を多くの人に伝えること。上野村を訪れた人に「また来たい」「住んでみたい」と思っていたことが目的です。

今井 手段の一つが自然を活かしたイベント。

石井 でも自然頼みではなく、イベントを通していかに上野村らしさを感じていただくかが重要です。

今井 そんな意味で石井さんが企画した『ライドハンターズ』は大成功でしたね。いろんな魅力が参加者に届

いたと思います。

石井 村内60カ所以上のスポットを探しながらサイクリングするという内容でタイムは関係なし。私と同じ自転車好き1000人に楽しんでもらいました。

今井 スポットで写真を撮ったり、上野村のおいしいものを食べてポイントを集めるんですよね。

石井 で、終了後は特産の豚豚でバーベキュー。これも喜ばれました。

今井 私が担当する『森林セラピー』や馬に乗っての『ホースセラピー』も好評なんですよ。

私たちにしかできないおもてなし

石井 「こんなのやってみたい」をやらせてくれる風土が上野村にはあるよね。懐が深いというか。

今井 仕事をする上でありがたいですね。地域の人も協力的です。

石井 いざというとき、昔ながらの濃い人づきあいがあるの言う。

今井 はい、イベントでも毎回助けてもらっています。みんな口は悪いですけどね笑

石井 農産物の提供を突然頼んでも「しょうがねえな」と言いながら出してくれる(笑)

今井 最近思うんです。私たちは、仕事を通して、地域の人を巻き込んで訪れる人を含め、みんなでもてなしているんだなって。土地の魅力を村ぐるみで伝えていく力が上野村にはあると思っています。

石井 やれることはまだまだあります。上野村の魅力を力に変えて、発信力を高めていきましよう！



産業情報センター

MEMBER



情報センターでは、上野村の魅力発信を目指して多摩美術大学とコラボ。商品/パッケージや観光エリアの標識サインを新たにデザインするプロジェクトも進行している。学生と想いを共有し、新商品の開発も行っていく計画だ。



石井 普段は入れない中之沢源流域自然散策路を歩くんだよ。正直、馬の登場には驚いたけど。

今井 「馬を連れてきたら面白いかも」と同僚と話して実現したんです。経費はかかりますが、「人が集まって次につながるならいいんじゃないか」と上司も後押ししてくれました。

石井 貴裕 (2016年入職)

群馬県高崎市出身。ホームセンターで13年間販売・販促業務に携わった後、人生のステップアップを目指して転職を決める。現在はイベントの企画・運営、大学交流事業などを担当。趣味はロード用自転車。

今井 優実 (2017年入職)

埼玉県美里町出身。大学卒業時に親から「一度は家から出てみなさい」と促され、新卒で移住。温かく優しい人たちに囲まれ、夫婦で、心豊かな暮らしを楽しんでいる。担当は総務・労務、イベント業務のサポート。



◆ 社会福祉協議会

目指せ！上野村博士！
方言クイズ

Q1. ミーシミル

※回答は次のページに記載

不便をかき消すぐらいの
幸せを手に入れた

初めて上野村に来たとき、心底驚いたんです。「ここは秘境かぁ」と。でも、田舎暮らしを希望していた私に、目の前の景色は魅力的でした。村の暮らしは、地域の会合が定期的にあつて、人と人が濃密な関係。どんな集まりも必ずお酒が出て、雑多な話で盛り上がるんです。山のことに詳しい人、歴史を話してくれる人、鹿を撃って肉を持ってくる人、気取りのない座が妙に面白いんですよ。私はもともと社交的ではないのですが、都市部の暮らしにはない人の温かさを心地よく感じて、スーッと仲間に入れました。子どもたちも自然の中でのびのび育っています。川遊びや山登りは当たり前。小学校は少人数学級で、先生の目が行き届いています。村にはコンビニも大きなスーパーもありますが、そんな不便をかき消すぐらいの幸せを手に入れたと思っています。

この谷に誇りを持つ
人たちの想いを次の世代へ

上野村は山あいの谷の村。村の人はこの谷に誇りと愛着を持っています。その想いを次の世代へつないでいかなければいけないと思っています。移住者にはスローライフ目的の人も多いようですが、本気で村づくりに関わってくれる人を村は求めています。転職先に困らないように仕事を留意してインターン者を迎え入れているのも、上野村に根を下ろしてほしいから。

少子高齢化が進んでいる上野村では、私たちの年代が※『おてんま』で少し頑張るだけで村に役立っている実感がありません。頼られていることにやりがいも感じるんです。できる範囲でできることをやればいいんです。移住に失敗しないためにも、共に支え合う共助で成り立っている生活を理解し、明るい未来を一緒に築いていける人に私も期待しています。



※おてんま：村で行う共同作業のこと

あたたかい近所

移住したとき長女は1歳。その後、次女も生まれて4人家族になりました。地域の人は、湯澤家の「上の娘」「下の娘」をかわいがってくれ、近所の道を歩けばお菓子をもらい、回覧板を持って行けば野菜を抱えて帰って来ます。



湯澤 誠(2013年入職)

結婚4年目の33歳のときに、埼玉県久喜市から妻の故郷上野村に移住。永住するため、マイホーム資金をはじめ、できるだけ事前準備をしたという。現在は新築の一戸建てで上野村ライフを楽しんでいる。

人の温かさが 心地いい





森林組合



大石 勝(2011年入職)

神奈川県横浜市出身。林業の経験はなかったが、「山の仕事をしたい」と移住。5年後に上野村出身の妻と出会って結婚し、3人の子どもに恵まれる。守る家族ができ、今は安全第一で仕事に取り組んでいる。

山は上野村の財産

主な仕事は山に入って木を切ること。簡単に言ってしまうとそうなりますが、山仕事は単純ではありません。重機を入れるための実地踏査に始まり、作業道の作設、木の伐倒、集材、造材、搬出まで、多様な経験と知識・技術が必要です。山によって傾斜や地形、木の種類、枝の広がり方が違うため、作業道の設け方や木の倒し方は現地で適切な判断が求められます。奥が深く、難しい仕事です。だからこそ面白いし、やりがいも感じるんです。自分たちが山に手を入れるのは、社会に役立つ木を育てているから。山は上野村の財産です。長い目で木が育ちやすい環境をつくり、子どもたちの世代、その次の世代へ大切に受け継いでいかなければならないと思っています。



【方言クイズ】Q1の答え:本気でやる

森の仕事は、クリエイティブ

作業道をつくる前には、まず山を歩き回って地形を調査する。重機がどう上り、どう下るのか。どこから入って、どこにカーブや分岐点を設けるのか。作業の効率性だけでなく、安全性も確保するルートづくりが重要になる。



小松 愛(2007年入職)

山形県出身。大学で美術を学んだ後、木工の仕事を求めて上野村森林組合に就職。おもちゃや小物類を中心に木工品の企画・製造に携わる。同じ1ターンの夫と職場結婚し、現在は2歳の男の子のママ。

森は、創造力をも 育ててくれる

木に学び、
木をデザインする

森林組合で切り出した木を使い、家具や食器、オモチャ、小物など多彩な木工品を製造しています。木にふれて何かをつくるのは面白いし、自分で考えて新しいものを生み出すのも好き。でも、売れなければ仕事として成り立たないので、製品づくりにはお客様目線が大切です。木工品の見本市に足を運んで勉強したり、おもちゃで遊ぶ子どもたちの反応を参考にして工夫を重ねています。周辺の山は広葉樹も針葉樹も豊富で、木を見る力が養われたことも成長につながりました。今、国産の広葉樹は少ないんですよ。新たな提案に「やってみりゃよかんべ」と背中を押してくれる上司に感謝しつつ、これからも木に学び、「あったらいいな」を形にしていきたいと思っています。

未経験でも大丈夫!

大学で立体造形は学んだが、上野村森林組合に就職するまで木工は未経験。最初は機械の使い方から覚えた。つくりたいものがあればどんどんチャレンジできる仕事環境で経験を重ね、技術力を磨くことができた。





♥ 農業協同組合

目指せ！上野村博士！
お言クイズ

Q2.
ハー、ヨカンベ

※回答は次のページに記載

いのぶた(猪豚)を生産する上野村農協の仕事に魅力を感じ、移住を決めました。「学校で学んだ畜産の知識を活かしたい」と思ったのです。猪豚は、雄の猪と雌の豚を掛け合わせた家畜。豚とは違って飼育が極めて難しいため、全国でも3〜4カ所しか行っていない分野です。事業者が次々撤退する中、上野村は1970年から粘り強く続け、ノウハウを蓄積してきました。今では希少価値が生まれ、豚ロースが100g150円のところ猪豚ロースは500円。加工品はさらに付加価値が高まります。大事なものは品質です。新たな担い手を育て、飼育の規模も拡大していきたいと思っています。村の特産品は観光資源の一つです。観光客の気持ちを刺激し、わざわざ買ってくる動機づけにもなります。今後の目標は、日本でも数少ない猪豚という特産品を広く知ってもらい、全国の強いブランド商品に育てること。「猪豚生産は上野村の花形」と言われるまで仕事のレベルを上げていきたいです。

いのぶたの
付加価値を高めたい

都会の暮らしを離れ、上野村にやってきて10年以上になりました。村に住み続けているのは、やっぱりこの仕事が好きだからです。相手は生き物だから大変だけど、手をかけて育てれば商品としての成果につながるのでもやがいがあります。商品ではあっても可愛いし、信頼関係も生まれるんですよ。猪豚は繊細な動物なためストレスにならない飼育環境が大事ですが、そうした環境は飼育員の気持ちに余裕がないと守れません。上野村の自然や周囲の人たちの優しさに癒され、私自身がストレスなく暮らすことが元気が猪豚を育てると思っています。人と人の温かいつながりがあって、やりがいのある仕事もあって、中身のある濃い人生が送れています。

上野村で送る濃い人生



#猪豚カレー

上野村農協は、農畜産物の生産から食品加工、販売まで手掛ける6次産業化を推進。努力の結果、いのぶたセンター生産の肉を使った「猪豚カレー」が、2015年JAグループ6次産業化商品コンテストで優秀賞を受賞した。



上野村の 「いのぶた」を全国へ



小池 銀太(2011年入職)

東京都出身。高校・大学で畜産を学んだが、卒業後は不動産業界に就職。縁あって上野村農協を知り、「猪豚飼育に携わりたい」と転職を決める。いのぶたセンター場長兼特産課営業担当として仕事に励む毎日。



↑きのこセンター

目指せ!上野村博士! お言クイズ

Q3.

トブ

※回答は次のページに記載
Q2の答え:もういいだろう

評価が上がってきた今こそ 新たなスタート

上野村のしいたけは、低い温度帯でゆっくり育てることが特徴です。肉質が詰まった厚いしいたけに育ちます。特に品質にこだわり、湿度・湿度・菌床状態、衛生など細部に気を配って管理しています。でもA級品ばかりがいいわけではないんですよ。お客様の要望に合ったものをつくり、欲しいときに出荷することも大事なことです。

しいたけ栽培は人手がかかる仕事。1人で頑張っても成果は出ません。様々な人が働く中、みんなで目標を共有し、意識を高めることが必要です。高い品質・収量は、安定した注文につながり、報酬や働き方として返ってきます。そのサイクルは以前よりうまくいっている実感がありますね。

私は、この仕事にやりがいを感じています。市場の評価が上がってきた今こそ新たなスタートと思い、さらに上を目指していきます。



重原 俊也 (2014年入職)

群馬県前橋市出身。大学卒業後は東京の小売業界で働いていたが、地元群馬で農業がしたいとUターン。現在はきのこセンターで44人の仲間と、生産管理、販売、人材育成に取り組む。2歳の女の子のパパ。

みんなで 目標を共有し 意識を高めていく

家族と過ごす プライベートな時間も充実

上野村に引っ越してから子どもが生まれました。現在は家族で住める一戸建ての村営住宅を借りています。家賃が安いので助かっていますね。保育所は1歳半から全員預かってもらえるので、子育て中のお母さんも働きやすいと思います。上野村の人は寛容だから、子どもに熱が出たときも休みを取りやすいみたいです。村には、未就学児の育児サークルもあり、お母さんたちが交流しています。

上野村の生活は、地域の行事は多いし、男性なら消防団活動もあります。でも私は、転勤の心配がなく、家族とのプライベートな時間が充実したこの生活が好き。日常的に、シカ、カモシカ、サル、リス、フクロウに会える大きな自然も気に入っています。何よりお金を使う誘惑がないのがいいですね(笑)



#快適な一戸建て住宅

結婚3年目で移住。子どもが生まれて、現在は3LDKでベレットストーブ付きの家族用一戸建て村営住宅に移った。きのこセンターは住宅補助があるため、家賃の自己負担額は安く、助かっている。



菌床しいたけの栽培施設として、上野村きのこセンターは群馬県で3番目の規模を誇る。努力の甲斐あって、市場の評価も年々上がり、現在は黒字経営を実現している。安定品質・安定供給に対し、お取引先から毎年感謝状も届く。



上野振興公社

目指せ！上野村博士！
方言クイズ

Q4. セワーニャー

※回答は次のページに記載
Q3の答え：走る

東京時代の仕事は売り上げ最優先。「違う価値観の仕事はないか」と模索していたときに出合ったのが上野振興公社でした。山村の魅力を活かしたビジネスで地域経済を活性化し、人の雇用や定住につなげていこうとしている上野村の力になりたいと思いました。

上野振興公社は、宿泊施設と観光施設を運営している会社です。上野村経済に重要な観光事業の起点として集客し、村内各観光施設へ誘導する動線づくりを担っています。地道な営業活動はもちろん、効果的な広告戦略や村外でのプロモーション活動によって来訪の動機付けを行うと同時に、上野村観光の価値を上げ、「また来たい」と思う人を増やすことが大切です。経済に直結する観光事業を下支えする責任はありますが、それだけに大きなやりがいを感じています。

上野村観光の価値を上げ
地域活性化につなげる

人が優しい村だからできる
魅力的な職場づくり

「いやだったら辞めればいい」。そんな風に考えるのは、イターン者に限ったことではないと思います。人材の流動化が進むいま、単に就職先を用意するだけでなく、魅力的な職場づくりに力を入れていくことも必要なかもしれません。

私たち受け入れる側が変わって、もっと柔軟に働ける環境を整備していくこともその一つです。都会暮らしに生きづらさを感じている人、利益追求型の一般企業では難しい人など、多様な人材が働く山間地域型ダイバーシティ社会を目指すのもいいですね。人が優しい上野村には、人が人らしく働ける環境がある。そんな魅力を最大限に発揮し、上野村モデルを構築したいと考えています。

イターンを希望する人には、「何も気負わず、上野村に興味があったらチャレンジしてみて」と言いたいですね。

#観光客は年間10万人

上野振興公社が運営する宿泊施設「やまびこ荘」「ヴィラせせらぎ」、アウトドアスポット「まほーばの森」を訪れる観光客は年間約10万人。宿泊者の食事で村内生産の野菜や肉を消費することも村の利益に貢献している。



「また来たい」と
想える上野村へ



瀧澤 延匡(2006年入職)

埼玉県上里町出身。営業として東京で働いていたが、地域資源を活かした仕事に興味を持ち、上野振興公社に転職。現在は、同社常務取締役として経営に携わり、多様な人材が活躍する環境づくりに取り組んでいる。

「郷土」を まもる

土屋 拓巳(2019年入職 しいたけ担当)

群馬県高崎市出身。自然あふれる地域で生活したいと移住。上野村ではすぐに顔見知りが増え、安心して生活できるようになった。四季折々の景色を見ながらのドライブが楽しみ。



野田 耕太郎(2016年入職 イチゴ担当)

埼玉県入間市出身。首都圏の大学を卒業後、「自然の中で仕事がしたい」とゆーばる上野に就職。現在は、イチゴ栽培、しいたけ栽培を中心に様々な業務に挑戦している。趣味は映画鑑賞。



和光 昌士(2020年入職 ミニトマト担当)

山梨県富士吉田市出身。農業に興味があり、求人サイトで出会ったゆーばる上野に転職。時間に追われていた前職と異なり、自分のペースで仕事ができる今の環境が気に入っている。



ゆーばる上野

合同会社ゆーばる上野

2015年に設立。道路や公共施設の維持、畑作振興、森林資源の活用など、上野村の郷土保全のための事業を行っている。



未来へ向けて、大型のビニールハウスを活用

ハウス規模4棟で約2,000㎡、収穫量年間12トン。今後、さらに栽培を安定、収穫量を確保し、上野村の特産品生産拠点として活用していきます。

縁の下の力持ち

イチゴの栽培は、ゆーばるでは比較的新しい事業です。現在は、3棟のハウスでやよいひめ、かおり野という品種を育てています。イチゴは村内で消費されることが多く、お客様から直接「おいしかったよ」の声が聞けることが仕事のやりがいになっています。でも角度を変えると、これからの課題は販路の拡大だと思うんです。「村外の道の駅に卸すのもありかな」と戦略を練っています。ゆーばる上野は、有休農地を利用した作物づくりのほかに、村内の景観整備を担う会社です。自分のような若い世代の担い手が縁の下の力持ちとなり、郷土を守る役割を果たします。自分たちが一生懸命頑張ることが上野村の未来につながると思っています。

野田さん
イチゴ担当



お客様の笑顔を見たい

ゆーばる上野で、主にしいたけの栽培と販売を手掛けています。さまざまな出荷先がある中、村内の商店や住民の方々も大切なお客様。村内から注文をいただいた際は直接配送に伺うのですが、「みんなが喜んで買ってくよ」「おいしいからまた頼んじゃった」と言われることが一番のやりがいです。顔を合わせれば気軽に声をかけてくれ、気持ちに通う時間を持てるのが上野村の魅力です。職場も温厚な人ばかりで働きやすく、楽しく仕事ができます。しいたけ事業は、生産を安定させ、十分な収穫量を確保することが課題になっています。もっとたくさんのお客様の笑顔を見るためにも、しっかり生産管理を行っていくことが目標です。

土屋さん
しいたけ担当



農業もモノづくり

電機メーカーのエンジニアとして働いていました。農業経験はありませんでしたが、エンジニア時代も年単位の製品開発に取り組んでいたの、モノづくりという感覚で農業も同じかなと思えたのです。自然を相手にするかどうかの違いはあるだけで根本的な考え方は一緒です。そうはいっても、担当になったミニトマト栽培では初めてのことばかり。苗の定植から収穫までさまざまな手入れや管理が必要ですが、先輩に指導を受けながら知識を増やしているところです。たくさんの方々に「おいしい」と食べていただく作物をつくるために、試行錯誤を続けていきたいと思っています。モノづくりの理論を活かし、上野村の農業に貢献していきます。

和光さん
ミニトマト担当



※【方言クイズ】Q4の答え: 難しいことはない

上野村は「良いところ」だんべ!!

上野村の自慢は何といっても人。少し荒々しい群馬弁をぶっさらばうに感じるかもしれませんが、根は優しく、素朴で純粋、義理人情に厚い人ばかりです。そんな上野村民は、I・Uターン者を温かい気持ちで迎えます。大自然に包まれ、豊かな心を持つ人たちと一緒に上野村ライフを楽しみませんか。

2010年 約170人

2018年 約229人

2020年 約238人

I・Uターン者増加中

上野村の生活を選んで移住するI・Uターン者は年々増加。働く場所がたくさんあって、子育て支援が手厚いことも魅力になっているようです。村の暮らしに興味がある人は、一度上野村に来て、先輩移住者の方々に話を聞いてみてください。

上野村 Q&A

Q.1

コンビニはありますか？

A. 村内にコンビニはありませんが、個人商店で食品や日用品を買うことができます。最寄りのコンビニまでは、車で約30分かかります。



Q.2

公共交通を教えてください。
駅はありますか？

A. 村内に駅はありませんが、路線バスが走っています。村営の乗り合いタクシーで最寄りの上信電鉄下仁田駅まで行くことができます。また、村内からバスでJR新町駅まで行けます。



Q.3

大きな病院は近くに
ありますか？

A. 村内に診療所があります。近隣市町村に公立総合病院があり、公共交通で通院可能です。



Q.4

雪はどのくらい降りますか？

A. 年によって違いはありますが、多いときは積雪15cmくらいです。村の中でも20～30cm程度、積もる地域もあります。



上野村って
どんなところ？

Smile Life

子どもの笑顔が溢れる村づくり

上野村では、少人数ながらも子ども達が切磋琢磨し、時には協力し合う、一人ひとりの個性を伸ばす教育を進めています。少人数ではありますが、都会とは違い、大自然の中でしか学べないことも数多くあります。これからも、より良い教育を進めるために教育機器も整備し、教育環境を充実していきます。



保育所

仕事等のため、家庭で児童を保育できない保護者に代わって、1歳半から就学前までの児童を保育します。豊かな自然を舞台に、のびのびと遊びを楽しんでいます。2019年度から月2～3回、土曜日も保育所を開所しています。



上野小学校

児童一人ひとりの良いところを生かし、伸ばす教育を進めています。2009年9月に校舎、翌年6月に図書館棟を新築し、最新鋭の教育機器を揃えながらも木のぬくもりのある素晴らしい教室環境で、上野小の児童は伸び伸びと育っています。



山村留学「かじかの里学園」

大自然豊かな上野村での合宿生活。山村留学生は、地元の小中学生や村民と交流を深めながら、様々な体験活動に挑戦し、山里文化を学んでいます！



学童保育

小学1年生から小学6年生までの児童を対象に、生活や遊びを通して子どもの健康増進と心の豊かな育ちを支え、働くお父さん、お母さんを応援します。



上野中学校

豊かな自然環境の中で、少人数学級の良さを生かし、心豊かで主体的に活動できるたくましい生徒の育成を図っています。文化祭等の学校行事を積極的に公開して、上野中から元気を発信しています。



Enjoy ☀️
Uenomura